（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和５年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	松本の中心市街地にありがとうの輪を広げるプロジェクト
事業主体 （連絡先）	松本ありがとうプロジェクト 長野県松本市中央 1-3-18 駅前共同ビル 1F（イルニード内）
事業区分	（６）産業振興、雇用拡大に関する事業　商業の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,143,205 円（うち支援金：4,914,000 円）

事 業 内 容

松本駅前地区における来訪者歓迎及び飲食店を中心とした経済の活性化、松本の文化継承、人と人との間にありがとうの輪を広げる事業として

①８月の青いＴシャツキャンペーン
②１月のプロジェクショングラフィック
③１月のつながるーむ
④２月のフラワーバレンタイン
上記４つのイベントを企画し、松本駅前お城口広場を中心とした駅前地域で実施。

【プロジェクショングラフィック】

【目標・ねらい】

①松本駅前を中心とした商業の活性化
②松本地域の伝統文化の継承
③人と人を結びつけありがとうの輪を広げる
④世代を超えた協働

事 業 効 果

①青いＴシャツキャンペーンは、飲食店の店主がＴシャツを着用して来訪者への歓迎の意を表するとともに、駅前ではこの企画に賛同してくれた地元のダンスチームが無償にて盛り上げてくれ、通行者にＴシャツを配布する等してこのイベントの告知も合わせて行った。松本市内の小学生にイラストを描いてもらいＴシャツの胸にデザインした。
②プロジェクショングラフィックは冬の松本駅前に彩りと歓迎の意を表するために行い、数多くの人がグラフィックと自分の映像を投影する仕掛けを楽しんでくれた。市内のエクセラン高校美術コースの生徒５名に投影に使用するイラスト作成を依頼し、若い世代のイベントへの参加も促すことができた。
③つながるーむは、シングルエイジ教育学会（松本短期大学内）の山藤宏子准教授の全面協力の元、松本地域に伝わる伝統行事の発表や昔ながらの遊びなどを子どもたちに伝えるイベントを開催。多くの家族連れの参加があり、子供だけではなく大人も遊びに興じるなど理解と賛同が得られた。
④フラワーバレンタインは、エクセラン高校園芸コースの生徒さんの協力で鉢花を用意してもらい、同じくエクセラン高校ボランティア部の生徒さんに配布を協力してもらい、通行人に花を持ち帰ってもらうことができた。

※自己評価【A】

【理由】
昨年度からの継続イベントがある中で、松本ありがとうプロジェクト単独での活動から、小学生、高校生などの新たな人材の参加を得て活動できたことが広がりを生み出した。海外からの観光客にも好評でイベントを楽しんでもらえた。

今後の取り組み

今年度は、Ｔシャツのイラストには小学生、つながるーむでは短大生、フラワーバレンタインでは高校生との協働が生まれ、今まで以上に世代間交流ができた。来年度以降はこの流れを持続するとともに、中学生や大学生など今年度は関わりを持てなかった世代との協働を進められるような施策を考えるとともに、松本ありがとうプロジェクトだけでは考えられない新たな施策を創出すべく企画段階から多くの人に参加してもらえるような体制づくりを行い、プロジェクトの基本理念である「ありがとうの輪を広げる」活動を行っていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある